

記録2024年

『東日本大震災』から13年

復興を推進 「学術と産業の拠点」
戻れない 『帰還困難区域』



中野地区工業団地 エフレイ 双葉町



棚塩工業団地 水素工場 浪江町



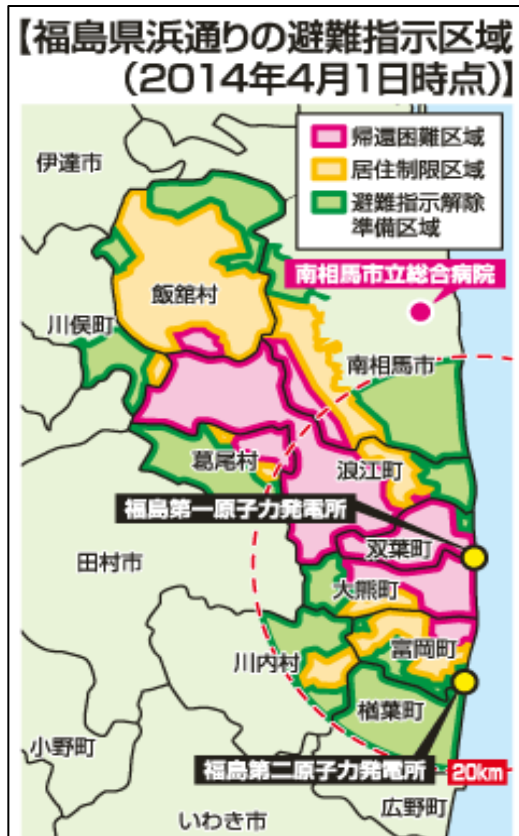
「特定復興再生拠点地域」 大熊町



「帰還困難区域」 双葉町

環境省環境カウンセラー 福島県南相馬市在住 長澤 利枝

【まえがき】



震災から3年
2014年4月1日の相双地方状況



震災から11年 2022年8月31日
相双地方の復興状況

《その1》

震災直後から、各避難所に、手作りの黄色い竹とんぼとピースを届ける、「メンタルケア」を、仲間たちと行った。六月の蒸し暑い日、ビックパレットを訪れた。中は避難の人々で溢れている。階段の下に、10人ほどの子供たちが群れていた。竹とんぼを渡そうと声をかけると、「うるせ～ばばあ あっちへ行け」「オメエ～らと関係ねえんだよ」唾を私の顔に掛けた。それでも声をかけた。「おばちゃん 南相馬だよ」「ふ～ん～俺 小高」「小高に美味しいケーキ屋さんあったね」「おばちゃん 知ってんの?」。彼は、小学三年生らしい。竹とんぼは受け取らなかった。訪問を終えて外に出た。

母子が、雨の中を走ってきた。子供だけが私に近づいて、「竹とんぼもらいに来た!」。あれから13年。あの時のあの子は、多分社会人になっているだろう。故郷小高区に戻ったろうか。それとも避難先で家族と生活しているのだろうか。過酷な苦難を、希望に変えて力強く生きていることだろう。

《その2》

2012年から13年間、毎年2回記録誌を作成している。当時 20 km圏外「避難指示準備区域」は、災害瓦礫撤去等と並行して除染が始まった。20 km圏内「帰還困難区域」は手付かずのままだった。ようやく2014年3月11日、国道6号線全線復旧通行可となり、復旧・復興が加速。それでも、国道以外は立ち入り禁止。特に大熊町・双葉町は放射線量が高かったため、復興は先送りになった。その後、国主導『福島イノベーションコースト構想』により、産業のまちづくり復興を後押し。『特定復興再生拠点区域』によって、『帰還困難区域』の解除により居住区域が拡大。昨年『エフレイ』が設立『学術と産業の拠点区域』として科学技術の発展が期待されている。しかし、これらの政策が、地域に根を張るにはまだまだ時間がかかる。帰還率が低い各市町村は、移住者の確保に力を入れている。補助金や優遇措置を図り、人口減を食い止める14市町村の被災地は、日々変貌している。

【富岡町】

★ 富岡町の現況

2023年11月30日午前10時

『特定復興再生拠点区域』すべての避難指示の解除が完了。しかし、除染されない宅地は対象外で、地区住民の帰還のために除染を進め、すべての避難指示解除を進めることが課題だ。夜ノ森公園は避難指示解除により、公園・駐車場の設置など環境が整ったこともあり、今年の桜まつりは大変な人出になった。

役場周辺は、公的機関施設及び『イノベーションコースト構想』施設が稼働。住民の帰還が増えている。

特に、『県立双葉医療センター』は、住民の命の拠点である。



何処までも続く桜並木



文化財指定標柱



『イノベーションコースト構想』施設
廃炉環境国際共同研究センター



文化交流センター提示
津波避難経路案内図

★ 常磐線富岡駅

富岡駅一帯は津波で壊滅、翌日の原発事故により『警戒区域』になった。

2015年1月ホーム・跨線橋解体。震災から9年を経て、駅舎・付帯施設の完成。常磐線全線開通。



津波で流失した駅舎



嵩上げされての敷設



2020年駅舎完成・2024年整備完了

★ 富岡漁港

元は小良ヶ浜漁港だったが、現在の地を整備して富岡漁港となり、県に管理を移管した。

2011年3月11日の大津波で壊滅。復旧工事が完了し、2019年7月26日帰港式が行われた。



津波で座礁した漁船



護岸工事始まる



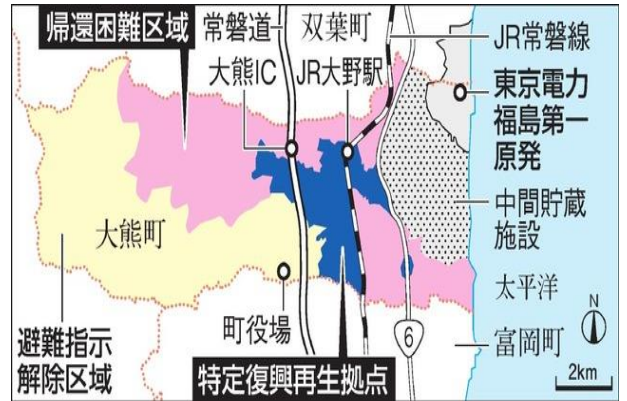
港完成 現在4漁船操業

【大熊町】

★大熊町の現況

大熊町と双葉町にまたがって東京電力福島第一原子力発電所がある。

2011.3.11『東日本大震災』による大津波によって原子炉が爆発。全住民11,505人に避難指示が出された。その後、中間貯蔵施設の建設により、汚染土壌搬入が続いている。原子力発電所のデブリ取り出しが困難に直面し、先行きの見通しが不透明だ。国が真摯に取り組む課題だが、大熊町は大きな課題と向き合い続けなければならない。



★大熊町の復興

帰還困難区域が広範囲に及ぶが、「特定復興再生拠点」により避難指示が解除され、居住が可能になったその面積は約860ha。この措置によって、大熊町のまちづくりは加速的に進捗。「スマートコミュニティ」実現が、着々と進む。町役場を中心に賑わい広場、続く復興住宅、文化会館が続く。2023年、認定こども園と義務教育学校「学び舎ゆめの森」が開校した。斬新な教育が脚光を浴びる。大野駅周辺は、商業施設ゾーンとして整備。県道いわき浪江線沿いに、大型工業団地の造成が進む。



コンパクトシティ 災害公営住宅



学び舎ゆめの杜



ゆめの杜入り口



県道いわき浪江線沿い造成中



広大な工業団地 大手自動車 JOINT 決定



★解体が進む国道6号線沿い

大型店舗が並ぶ国道6号線沿いのジャバラゲートは、2022年6月30日避難指示解除により取り払われた。除染が進み解体されていく。しかし、道路海側は「中間貯蔵施設」で立ち入り禁止。復興はまだ先だ。



6号線沿い民家解体中



荒れ果てた国道6号線沿い



未だに残るジャバラゲート

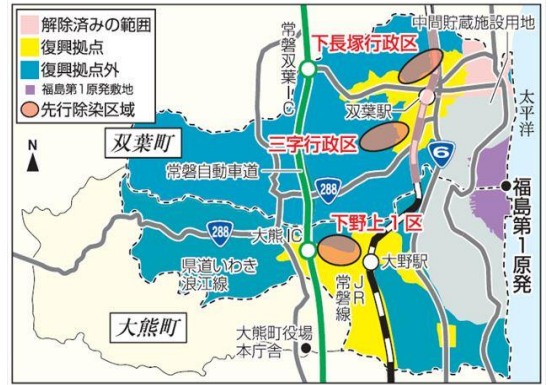
【双葉町】

★ 双葉町の課題

双葉町は、大熊町との境に広大な『中間貯蔵施設』がある。一時保管中の土壌は、2045年3月までに、県外で最終処分すると法律で明記されている。しかし、その期限まで残り21年だ。その先は不透明で、町民は元より私たち福島県民も不安は尽きない。

★ 双葉町の復興

2022年8月30日午前0時、双葉駅周辺特定復興再生拠点の避難指示が解除。双葉町独自の復興まちづくり計画(第三次)を策定した。「町民一人一人の復興」と「町の復興」を基本理念に、双葉町の復興は加速している。



駅前のバラ園と役場



災害公営住宅 楽しみな庭の手入れ



多様なデザイン住宅

★ 『イノベーション・コースト構想』中野地区工業団地・復興住宅で街に潤い

取材の度に様子が変わる。稼働している工場、マスコミ等に取り上げられる企業がある。

この中野地区工業団地は、建設は完成しているが稼働していない企業が数社ある。

「始めに土地と建設ありき」。陸橋建設によって国道228号へ通じる

駅前にはミニバラ園が目玉。道路を隔てた役場と調和がとれている。数メートル離れた商店街は当時のまま。駅西側は、コンパクトシティ。デザインの異なる住宅が並ぶ。住民の触れ合いが見られた。



国道6号線高架橋工事



伝承館見学ツアー



宿泊施設

★ 「公立双葉病院」「公立双葉准看護学校」などの公共施設は当時のまま

国道6号線信号右折すると、「公立双葉病院」付随する施設が、当時のまま現存。

13年前、避難で大変な事態を引き起こした施設だ。この通りでは人や車に遭遇しない。置き去りにされた施設だ。この先に、脚光を浴びている「中野地区工業団地」がある。



公立双葉病院



公立双葉准看護学校



住民のいない屋敷

【浪江町】

★ 浪江町の現況

福島県の浜通りに位置する浪江町は、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けた。

福島第一原子力発電所事故によって、町全域が避難指示区域となり、全町民が避難した。

その後、避難指示区域の解除により復興が進む。

★ 『イノベーション・コースト構想』

浪江町工業団地 交通等の利便性が高い

* 浪江町南産業団地は、津波の跡地を整地直後、海鮮加工会社他、現在3社。造成が進む。

* 浪江町棚塩工業団地は、津波で残された唯一の海岸林だった場所に造成。水素工場始め集成材製造等の会社が稼働。浪江町南産業団地・北産業団地を造成。継続して企業誘致に取り組む。



始めに操業・海鮮加工会社



イノベーション・コースト構想フィールド



ここから南相馬市
唯一残った海岸林

★ 請戸漁港

請戸漁港は復興がほぼ完了。33隻の漁船が係留。魚類の水揚げは豊富。

しかし、若手の担い手が少ない上に、高齢化に伴い船を降りた人も多い。

また、造船所不足により漁船建造は、現在順番待ちの状態だ。



請戸漁港 32隻寄港



漁師仲間で網繕い



この日は北寄貝・カレイその他の競り

★ 陶芸の里・大堀相馬焼の里 窯元戻る

大堀焼は、『東日本大震災』と原発事故で20軒以上あった窯元が、町外への避難を余儀なくされた。その半数は、各地に分散して窯の再建を果たしている。

2023年3月避難指示が解除。再建工事を進めていた「陶吉郎窯」の窯元が完成。6月15日竣工式が行われた。「陶芸の里」大堀地区は新たな出発の第一歩を踏み出した。



陶吉郎窯完成



窯元解体中



この先帰還国難区域

【南相馬市】

★ 南相馬市の現況

南相馬市の面積は、39858ha。
太平洋から阿武隈山脈までの広大な地域を有する。
田園都市としての産業・経済の集積は、浜通り地方北部最大だ。
農業・産業・商業のバランスの取れた振興を推進。
『イノベーション・コースト構想』によるロボットテストフィールドの進捗によって、新たな産業の集積を推進。
国指定重要民俗無形文化財「相馬野馬追」は暮らしに根付く。
しかし、人口減少は歯止めがかからない。
若い世代より高齢者が多く、まちづくりの大きな課題である。



★ 『イノベーション・コースト構想』

「福島ロボットテストフィールドは陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点。インフラや災害現場など実際の使用環境を再現し、ロボットの性能評価や操縦訓練ができる世界に類を見ない施設。



ロボットテストフィールド模型



試験用プラント



バスでの現地研修

★ 20km圏内住民南相馬市に居住

2・3年前から、20km圏内の住民の南相馬市内居住が多くなっている。令和6年5月31日、世帯数1.553、人口2.977人。「帰還困難区域」が解除されているが、インフラ整備や生活環境が整っていない等に起因している。南相馬市は「住み良い街」として知られている。自然豊か・働く場がある・文化が高い・行政サービスが行き届いているなど、居住の条件がよい。居住する人が、南相馬市のルールを守り生活することが大切だ。



山沿いの造成住宅



宅地造成後の住宅



便利な災害公営住宅

★ 市民活動の状況

コロナ禍によって、一時活動が低下した。2020年活動復活。南相馬市市民活動サポートセンターによると、市民活動登録団体は、113 団体。活発だが各団体との連携は少ない。多岐に亘る活動が柔軟な関係作りに期待する。ご多分に漏れず、各団体の高齢化は否めない。人と人との関係を維持する不可欠な活動だ。



市民祭り出展 何しているの？



ボラセンコナ



ごみエコピクニック

【参考資料】

No.1

『各市町村の面積・人口等の表』

《令和5年6月1日》

市町村名	区域面積	解除日	現在の人口
葛尾村	約 95ha	令和4年6月12日	147人
大熊町	約860ha	同 6月30日	783人
双葉町	約555ha	同 8月30日	103人
浪江町	約661ha	同 5年3月31日	2,200人
富岡町	約390ha	同年 4月1日・ 11月30日	2,349人
飯館村	約186ha		1,319人
南相馬市	約39858ha		55,878人

No.2

『福島イノベーション・コースト構想』

復興の切り札となる国家プロジェクトであり、浜通り地域の新たな産業基盤の構築をめざす。

当機構が、力を入れている3点をお伝えします。

- 1つ…「情報発信」。浜通り地域を中心に福島県の民に良く知ってもらうこと。と同時に福島ロボットテストフィールドなどの研究開発拠点を核に産業集積を実現するため、全国各地、世界への情報発信に取り組んでいること。
- 2つ…「地元への経済効果」。地元企業が福島イノベーション・コースト構想による経済効果を実感できること。浜通りには、技術力があり、ポテンシャルを秘めている企業が多数存在。イノベーションは必ずしもハイテクだけでなく、多様な技術の組み合わせからも生まれる。機構が地元企業の更なる技術力の向上・イノベーションの創出をサポートし、企業とビジネスの拡大につなげ、裾野の広い経済効果の実現を目指す。
- 3つ…「人材育成」。浜通り等の子供たちが、福島イノベーション・コースト構想に希望を抱き、構想の将来を担って世界に羽ばたく〈エンジニア、トップリーダー〉として活躍することを目指して、小中学生、高校生などを含めた地域における教育や人材育成の強化に取り組む。

各分野の研究拠点を活用し、 先端産業の集積を推進しています。

福島イノベーション・コースト構想 主要プロジェクト

「福島イノベーション・コースト構想とは、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。」

Fukushima Innovation Coast Framework

プロジェクト1

国内外の英知を結集した技術開発

廃炉

国内作業などに必要な高度技術を開発する「廃炉推進国際共同研究センター」

廃炉に向けた研究開発・人材育成を行う「廃炉推進国際共同研究センター」

新設産業集積地の整備・移転に向けた分析研究を行う「先端分析研究センター」

プロジェクト2

福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業を集積

ロボット・ドローン

陸・海・空のフィールドロボットの活用機会を創出した福島ロボットテストフィールド

2021年にロボットの技術やアイデアを競う「フルードロボコン」を開催

ロボット・ドローンの実証実験や長期試験の場として、浜通り各地を待機

プロジェクト3

先進的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ

エネルギー・環境・リサイクル

浜通り地域等全球において、再生可能エネルギーの計画的かつ内需導入促進を図るとともに、水素の供給や廃棄物処理の持続可能な社会を実現するための再生可能エネルギーの導入を促進

燃料電池自動車等の必要に応じて、の整備に対応する充电站ステーション

プロジェクト4

ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生

農林水産業

ICTを活用し、遠く離れた農地を効率的に管理し、収穫を促進

従来よりも高い、精度で効率的な品質が確保できる技術の開発

廃棄物の削減、資源の再利用を目的とした、付加価値の高い産業材料を製造する「福島高度産業材料製造センター（FHAM）」

プロジェクト5

技術開発支援を通じ企業の裾野を拡大

医療関連

浜通り地域の企業等への技術開発支援や、ICTを活用した医療機器の開発を目的とした「福島医療機器開発支援センター」

医療機器の開発から事業化までを一貫して支援する国内初の創薬・医療機器開発支援センター

企業へのコンサルティング、コンサルティング支援による新事業創出や、新技術の導入促進や、新たな産業創出への支援など、企業化への継続的支援を実施

プロジェクト6

“空飛ぶクルマ”の実証や関連企業を誘致

航空宇宙

航空宇宙関連産業の経路交流や、新規企業を誘致し、航空宇宙産業の発展を促進し、普及促進を目的に開発している「航空宇宙フェスティバル」

（注）IHA（国際航空宇宙産業振興センター）